

2006年2月12日 降誕節第8主日礼拝

『主イエスの名によって』

(エレミヤ書 31 章 31～34 節、使徒言行録 19 章 1～7 節)

エフェソの教会にアポロという伝道者がやって来ました。先週は、その時の様子を読みました。学問の町アレキサンドリア出身のユダヤ人のアポロは、キリスト教を受け入れており、イエスのことを人々に正確に教えていました。しかし、パウロの仲間であったプリスキラとアキラから見れば、アポロには何か欠けていたのです。二人は、アポロを招きもっと正確に神様のことを説明しました。アポロがもっと正確に、メシアはイエスであると人々に教えることが出来るようになるためです。それから、アポロはアカイア州に渡って行き、既にイエス様を信じていた人たちを大いに助けたといえます。このアポロは、アカイア州のコリントに滞在している時のことです。

その頃、パウロは、どうしていたのでしょうか。彼は、既に第三伝道旅行の旅に出ていました。ガラテヤ、フリギアの地方を巡回し、内陸を通して、エフェソにやって来ました(使徒 18 章 23 節)。パウロは、ここで幾人かの弟子達に出会います。パウロは、質問しました。「あなたがたが、信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか?」と。すると、この人たちはこう答えました。「わたしたちは、聖霊について聞いたことがありません。聖霊というものがあるかどうかも聞いたことがないのです」。イエス様を、信じていたのに聖霊について聞いたことがないとは奇妙なことです。なぜかというと、イエス様御自身は、地上におられたときから聖霊を送るということを約束をしていました(ヨハネ福音書 14 章～16 章)。また、復活なされたイエス様は弟子たちに「わたしは、父が約束なされたもの(聖霊)をあなたがたに送る」(ルカ 24 章 49)。このように言われているからです。ペトロも、このイエス様の約束を前提にしてペンテコステの日の説教でこのようにいっているのです。「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました」(使徒 2 章 33 節)。教会は、最初からイエスさまがわたしたちに聖霊を与えてくださる方であることを、はっきりと証言してきたのです。また、イエスの名によって洗礼を受けることで賜物として聖霊が与えられるということも教会は語ってきたのです。

パウロの次の質問エフェソの人々に向けました。「それなら、どんなバプテスマを受けたのですか」。そこで彼らは、答えました。「ヨハネのバプテスマです」。いうまでもないと思いますが、ヨハネとは福音書に出てくるバプテスマのヨハネです。先週出てきたアポロも、このエフェソの弟子たちも、ヨハネのバプテスマしか知らなかったというのです。イエス様の道を備えるもの、先駆者として生まれてきた人それが、バプテスマのヨハネです。彼の影響が、初代教会にも色濃く残っていたことがわかります。教会の歴史を学ぶと、初代教会には、バプテスマのヨハネの弟子だった人たちが少なからずいたといわれています。そういえば、イエス様の最初の弟子たちの中にも、バプテスマのヨハネの弟子だった人たちが入っています。シモン・ペトロの兄弟アンデレもその一人です(ヨハネ福音書 1 章 40

節)。しかし、なぜ、エフェソの弟子たちは聖霊について聞いたことがないというのでしょうか。それについては、疑問が残ります。バプテスマのヨハネは、悔い改めということ伝えていた。そのことは、この弟子たちも皆が覚えていました。ではヨハネは、聖霊について何も教えていなかったのでしょうか。そんなことはありません。ヨハネは、人々に聖霊のことを教えてきました。「わたしよりも優れた方が来られる。...その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる」(ルカ 3 章 16)。ヨハネは、自分の後から来られる方、つまりイエス様が、わたしたちに聖霊を送ってくださる方であると人々に伝えてきたのです。ヨハネが、人々に最も伝えたかったのはこのことです。エルサレムとユダヤの全地域から沢山の人がやって来て、ヨハネから説教を聞き、バプテスマを受けたのです。ヨハネが、らくだの毛衣を着ていた、イナゴと野密を食物としていたことなどを人々は覚えていたかもしれない。しかし、ヨハネの伝えたメッセージその中の核心ともいえるところを覚えていなかったのです。エフェソの教会の弟子たちは、まさにそうになっていたのです。最も人々に伝えたかった事、覚えていて欲しいと思っていたメッセージがみんなの心から抜け落ちていたとは、とても残念ことです。わたしたちは、これを他人事だと思ってはいけません。わたしたち自身が、この人たちと同じことをしているからです。わたしたちは、自分たちに神様のことイエス・キリストの事を伝えてくれた牧師や信仰の先輩達のことを、よく覚えているかもしれない。その人柄や生前の思い出は次から次に思い出せる。けれど、その牧師や先達が最も伝えたいと願っていたもの。イエス・キリストの福音がその人の心から抜け落ちていたとしたら。それでは、この世の信仰抜きの友情と何の違いもありません。信仰の友であったとは、とても言えないのです。主に結ばれたのもの同士の友情とは、同じ一人の主イエスを信じている、この一点で深められて行くのではないのでしょうか。

そこでパウロは、人々に説明しました。ヨハネが、悔い改めのバプテスマを宣べ伝えたのは何のためなのか。4 節「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めのバプテスマを授けたのです」。ヨハネは、イエス・キリストを信じるようにと人々に伝え続けた預言者でした。「わたしは、あなたたちに水でバプテスマを授けるが、わたしよりも偉大な方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちにバプテスマをお授けになる」。自分の後から来る方を信じるようにとヨハネは繰り返し人々に語り続けました。それにヨハネは、人々が何時までもヨハネの信者やファンなどで終わって欲しいとは少しも思っていなかったのです。

ヨハネが、まだ投獄されていなかった時のことです。イエス様は、ユダヤ地方で、ヨハネは別の場所でそれぞれ宣教し洗礼を授けていた時期があります。人々は、段々とヨハネよりもイエス様の方へ出向いて行くようになっていました。ある人々は、ヨハネに言いました。「あなたが証されたあの方がバプテスマを授けています。みんながあの方の方へいっています」(それでもいいのですか。と言わぬばかりに)。するとヨハネはこう答えています。「わたしは『自分はメシアではない』と言い、『自分はあの方の前に遣わされた者だ』

と言ったが、そのことについては、あなたがた自身が証してくれる。花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えねばならない」(ヨハネ福音書 3 章 28～30 節)。ヨハネは、自分の名が忘れられたとしても、預言者としてイエス・キリストの名が栄えることを喜ぶといていたのです。

ヨハネが伝えた悔い改めは、イエス・キリストを信じるためのものです。このことを聞いてエフェソの人々は、主イエスの名によってバプテスマを受けました。イエスの名による洗礼を受けた弟子たちの上に聖霊は豊かに注がれたのです。その有様は、ペンテコステの日と少しも変わりなかったのです。

エフェソの弟子たちは、イエス様がいてくださるから真実の悔い改めが出来ることを知ったのです。悔い改めとは、何なのでしょう。聖書の言う悔い改めとは、神に立ち返ること。それは、旧約でも新約でも一貫しています。悔い改めと言われると私達は、ただ過去の失敗を思って、後悔したり反省することだと考えます。もしそうだとしたら、悔い改めなど気持ちが暗くなるから止めようということになるのではないのでしょうか。本音を言えば、わたしたちは過去の過ちや失敗など思い出したくもないと思います。もし、わたしたちが本当の悔い改めを知らなければ自分の罪も過ちも認めることは出来ません。神様の前に出ても、私には罪はありませんと、居直ってしまうのではないかと思います。

誠の悔い改めは、神に立ち返ることだといいました。それと同時に、新約聖書では、本当の悔い改めは、イエス・キリストを通してなされるものだといっています。私達の罪を赦してくださる方、主イエスの名によって、わたしたちは、神の御許に立ち返ることが出来るのです。ペトロも聖霊を受けてこう言っています。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば賜物として聖霊をうけます」(使徒 2 章 38)。イエス・キリストを心から信じて洗礼を受けた人々に、神は惜しみなく聖霊をくださるのです。イエスキリストによって、わたしたちの罪は赦されている。だから、わたしたちは恐れずに、過去の過ちも罪深い自分自身を見つめ直すことができるのです。そこから、イエス・キリストに連なるものとして、あらためるべきことが見えて来るのです。罪を赦されたものとして出発することが出来るのです。将来についても、わたしたちはイエス・キリストに結ばれたものとして、希望を持つことが出来るのです。わたしたちは、主イエスの故に罪の赦しを信じ、永遠の命を信じています。これは、主を信じる者たちに与えられた望み、聖霊によって与えられる希望です。聖霊は、イエス・キリストを通してわたしたちに与えられた方キリストの霊です。この方は、罪深いわたしたちの内に住んでくださいます。逆境においてわたしたちを慰め、わたしたちを新たに造りかえてくださるお方です。わたしたちに永遠の命を保証されるかたなのです。わたしたちの内に住まわれる聖霊の働きを信じて歩んで行きましょう。 [説教者：堀地敦子牧師]